科学技術セミナーにおける安倍総理挨拶 —先端技術セッション—

シャルマ商工大臣、経済関係者の皆様、参加者の皆様、

本日、「科学技術セミナー」に参加できることを大変嬉しく思います。同時に、この偉大なインドに再び戻ることができたことを本当に嬉しく思っています。7年前、総理大臣としてインドを訪問いたしまして、国会で演説をさせていただきました。そして、総理大臣として再びインドを訪問するとお約束していたのですが、その約束を果たすために7年間もかかってしまいました。時間がかかったとしても、必ず日本人は約束を果たすということを改めて認識していただければと思います。そして、今回は、日本の総理大臣として、共和国記念日に主賓としてお招きいただき、改めてその暖かいおもてなしに日本国民を代表して御礼申し上げたいと思います。

今回のセミナーには、科学技術関係者のみならず、最先端の技術を持った企業関係者が集まっておられます。私が掲げる日本産業再興プランの中にも、科学技術イノベーションの強化が盛り込まれています。実用化・産業化を目指して、出口志向の研究を推進することをうたっています。科学技術は、それだけでは人々の暮らしを豊かにすることはできません。人々が科学技術の恩恵を享受するためには、実用化を経て産業界やビジネスと結びつく必要があります。このため、科学とビジネスが融合するこのセミナーは大変画期的であると思います。

この科学技術セミナーには、高い先端技術を持った日本有数の企業の方々が参加しておられます。正に科学技術イノベーションを実践してきている方々です。例えば、日本のインフラ技術は、デリー・ムンバイ間産業大動脈を進展させ、インドに更なる成長をもたらすでしょう。そして、日本の新幹線技術は、インドの高速鉄道整備に大きく貢献できると信じています。日本

の優れた医薬品や医療機器は、様々な感染症に苦しむインドの人々を救うことができるでしょう。また、インドにおいて経済成長と共に社会問題となってきた糖尿病などの生活習慣病の克服にも寄与することでしょう。インド固有の生物資源と日本の先端技術の融合により、新たな医薬品も実現するでしょう。インドは世界有数の農業大国でもあります。日本の農業・食品産業は農村地域の成長・発展に大きく貢献できるでしょう。そして、これらがビジネスチャンスにもつながっていくと思います。

更に、環境分野について言えば、インドの発電の約7割を占める石炭火力が日本の世界最高効率の超超臨界圧石炭火力技術を使えば、年間約3億トンのCO₂、即ち、インドが排出する約2割のCO₂を削減することができるのです。このように日本の技術がインドのために貢献できる余地はまだまだ多く残っています。

インドは、日本の技術を必要としていると思いますが、日本も同様にインドの優秀な人材を必要としています。ここにお集まりのインド経済界の方々におかれては、是非、日本あるいはインドの日本企業を訪れ、その目で日本の高い技術を見ていただき、日本企業との連携について検討いただきたいと思います。インドが誇るグローバル人材と日本が誇るグローバル技術のコラボレーションが、世界の成長を牽引する力になることを期待しています。強いインドは強い日本につながり、そして、強い日本は強いインドにつながります。日本とインドの二国間関係は、世界で最も可能性を秘めた二国間関係であると、私は確信しています。この可能性を顕在化させる力を皆さんは持っておられます。本日のセミナーがそのきっかけとなれば幸いです。

有り難うございました。